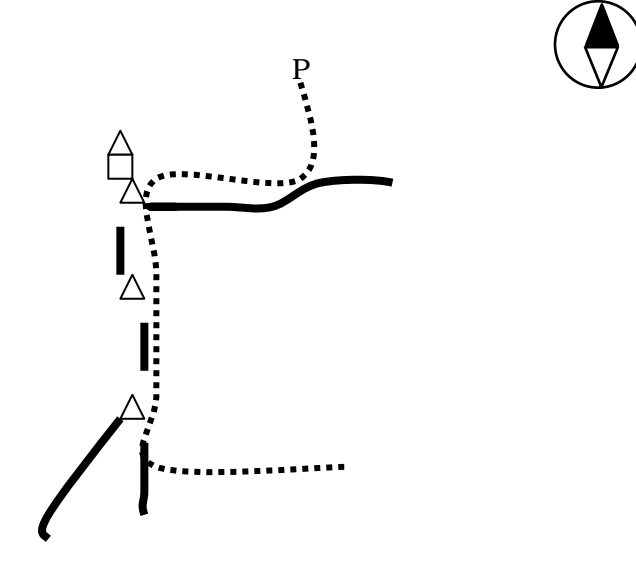


7月度個人山行報告書			報告者	竹内	参加メンバー	CL: 藤田、竹内 渡辺、塚本 岡田夫妻 三矢
			報告日	8/24		
山域	大峰山脈	山行日	05年07月16日(土)~		コースタイム(天候:天気図記号)	
山名	八経ガ岳・釈迦ガ岳		05年07月18日(月)			
山行目的	熊野古道・大峰山系奥駆け					

配布先	ルート図(地図を見て正確に) 
集会:12	
山行:1 リーダー	
原紙:集会 担当者	

7/16 曇り	7/17 晴れ
11:10 行者還トンネル	6:25 称山小屋
12:05 出合	6:55 八経ガ岳
12:45 弁天の森	8:45 迷平
13:15 聖宝宿跡	9:35 揚子ヶ宿小屋
14:30 称山小屋	11:50 鳥の水
	13:05 釈迦ガ岳
	14:45 分岐(太古の辻)
	15:30 二つ岩
	16:20 前鬼(宿坊)
	16:50P 車止めゲート

7/16 朝 7:00 刈谷を車で出発、10:40 行者還りトンネル西口に到着する。30台ほどの車が駐車しており駐車場は車でいっぱいである。準備をして出発する。樹林帯を進むとやがて急な傾斜になってくるが1ピッチで稜線にでる。しばらく休憩すると汗も引いて落ち着く。ここから先は稜線歩きなので緩やかな登山道を気持ちよく進む。人も沢山入っているようで道幅も広く沢山の人に出会いながら歩いていく。小屋までは3ピッチで到着。小屋泊まりなので夕食まで付近の景色を見ながらゆっくりする。小屋は修行僧が30人ほど泊まることもあって、にぎやかである。翌日、早朝に日の出を見て食事を済ませ出発する。小屋から少し進んだところでオオヤマレンゲの自生地を見る。白い花で珍しい花である。トウヒ原生林の中を進み小屋から30分ほどで近畿地方で最高峰の八経ガ岳に着いた。天気も良く大峰の奥深い山々が望める。時折、ほら貝の音が聞こえてくる。そして、釈迦ガ岳方面に向かう。登山道は狭くなり、出会う人も少ない。途中、揚子ヶ宿小屋により近くの水場で冷たい水を飲んで一息つく。この先、仏生ヶ岳の西面を通り孔雀岳の水場で休憩していたら前鬼から登ってきた塚本さんと合流した。そして、貝ズリ、橡の鼻の行場を過ぎて、急斜面を登ると釈迦ガ岳の頂上に着いた。展望がよくしばらく

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に



弥山小屋から朝の景色

確認 (リーダー)	無事到着して山行を終了。この後、トンネル西口まで車を回収、食事をして、民宿に泊まり翌日は吉野によって観光をして帰路に着いた。
藤田 05/7/26	リーダー所見 大峰山系74靡きの内の中心部を歩かせていただいた。今回もメンバーに恵まれ塚本先輩のサポートにはデンソー山岳部の温もりを感じずにはおられなかった。云うまでも無いが修験道の深山で厳しい歩行となったが来期も訪れたい気持ちを揺り動かすのは何故なのだろうか。帰路の金峰山脳天寺で般若心経の数珠を買求めた
(報告者) 竹 05/07/26 内	